

2022 年度さくらねこ無料不妊手術事業

一般枠アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2022 年度は 3,546 名の個人(一般枠)、47 団体、298 の行政と協働し、62,128 頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 25,538 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 3,096 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 32,243 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,251 頭(犬の申請なし)

無料不妊手術実施頭数 総合計 : 62,128 頭

1. アンケート概要

2022 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(一般枠)に事後調査アンケートを実施しました。

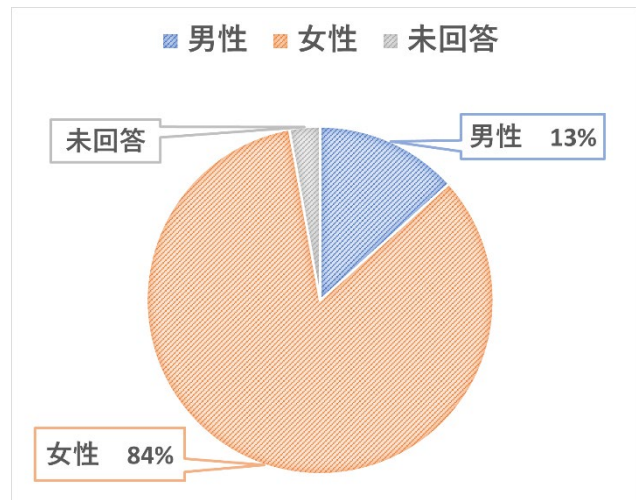
※一般枠とは:行政枠、団体枠に属さない個人ボランティア

- 2022年度さくらねこ無料不妊手術チケット一般枠申請者数 3,546 名
- アンケート対象となる一般枠マイページ登録者数 5,586 名(2022 年 3 月 31 日時点)
- アンケート有効回答数 1,968 件(マイページ登録者数 5,586 名中)

2. 協働ボランティアの男女比

男 性 : 262 名
女 性 : 1,650 名
未回答 : 56 名

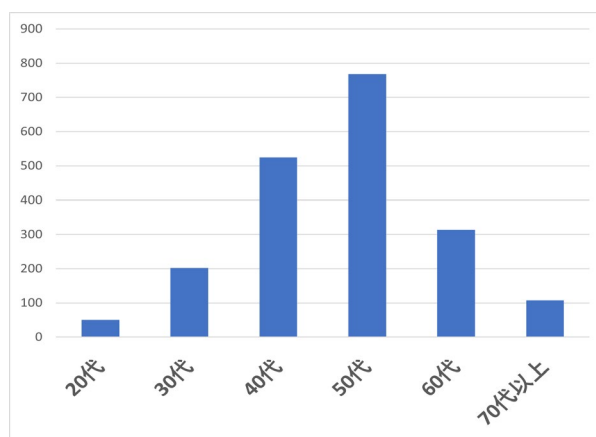
84%が女性でした。
例年、女性が8割超を占めています。



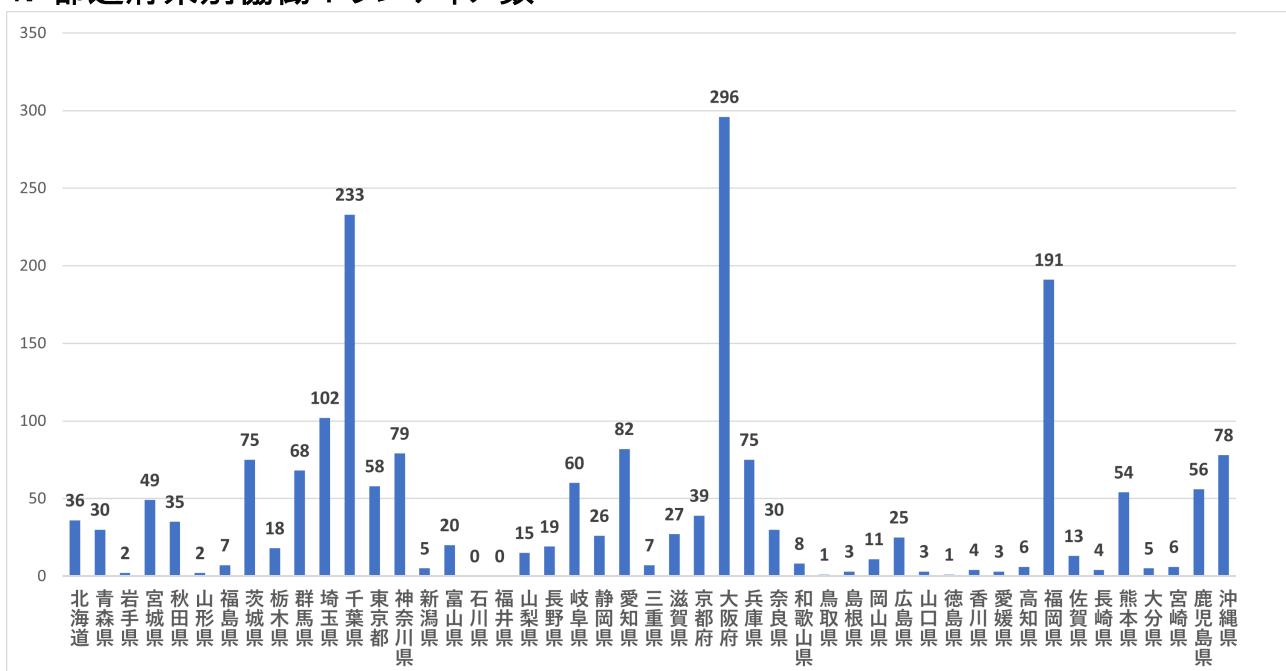
3. 協働ボランティアの年齢層

20代： 51名 50代： 768名
 30代： 202名 60代： 314名
 40代： 525名 70代以上：108名

40代以上が87%、20代は3%でした。



4. 都道府県別協働ボランティア数



沖縄県のボランティアからの回答数が激減しています。これは、2022年度から沖縄県内の一般枠へのチケット配分が停止されたためと思われます。大阪が突出している状況は5年以上変わりません。

5. 配布チケット数について

2022年度に配布を受けたチケット数(有効回答 1,968件)	票数	%
1～10	884	44.9%
11～30	339	17.2%
31～60	137	7.0%
61～100	58	2.9%
101～200	29	1.5%
201以上	8	0.4%
配布なし	513	26.1%

配布されたチケットの使用率(有効回答 1,454 件)	票数	%
100%	502	34.5%
80～99%	298	20.5%
60～79%	150	10.3%
40～59%	188	12.9%
20～39%	123	8.5%
1～19%	41	2.8%
使わなかった	152	10.5%

55%のボランティアが 80%以上の使用率でした。その一方、配分されたチケットを「使わなかった」と回答したボランティアが 1 割を超えています。猫が捕獲できなかった、協力病院の予約が取れなかったという理由のほか、対象の猫が妊娠してしまい自費で急いで手術を行ったというケースもありました。

6. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	125	6%
いいえ	1843	94%

行政が公式に認めた地域猫は、昨年度より1%減の6%でした。

あなたがエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	382	19.4%
1	136	6.9%
2～5	753	38.3%
6～10	349	17.7%
11～15	142	7.2%
16～20	83	4.2%
21～30	61	3.1%
31～50	38	1.9%
51～80	16	0.8%
81～250	7	0.4%
251 以上	1	0.1%

7. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	1536	78%
猫の性格が穏やかになった	707	36%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	932	47%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	261	13%
猫の健康状態が良くなった	339	17%
その他	160	8%

「その他」の回答の多くは、TNR を始めたばかりでまだ評価ができない、というものでした。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	996	50.6%
猫の数は変わらない	879	44.7%
猫の数が増えた	93	4.7%

「猫の数が増えた」と回答したボランティアからは、未手術の猫が出産してしまった、新たに猫が遺棄された、他の地域から別の猫が来るようになった等の報告がありました。

8. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	723	37%
苦情が減った	466	24%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	514	26%
協力してくれるひとが増えた(できた)	1061	54%
地域の人に感謝された	721	37%
猫を可愛がってくれる人が増えた	627	32%
その他	247	13%

新たな協力者ができるなど良い変化が見られる一方、「TNR をしていることは秘密にしている」「人目につかないように活動している」という回答もありました。飼い主のいない猫の問題は地域の問題であるということを理解せず、ボランティアに責任を押し付けようとする身勝手な人は未だに存在しています。個人で活動するボランティアにとって地域の無理解は最大の障害であり、この点においてまだまだ広報が不足していることを実感させられます。

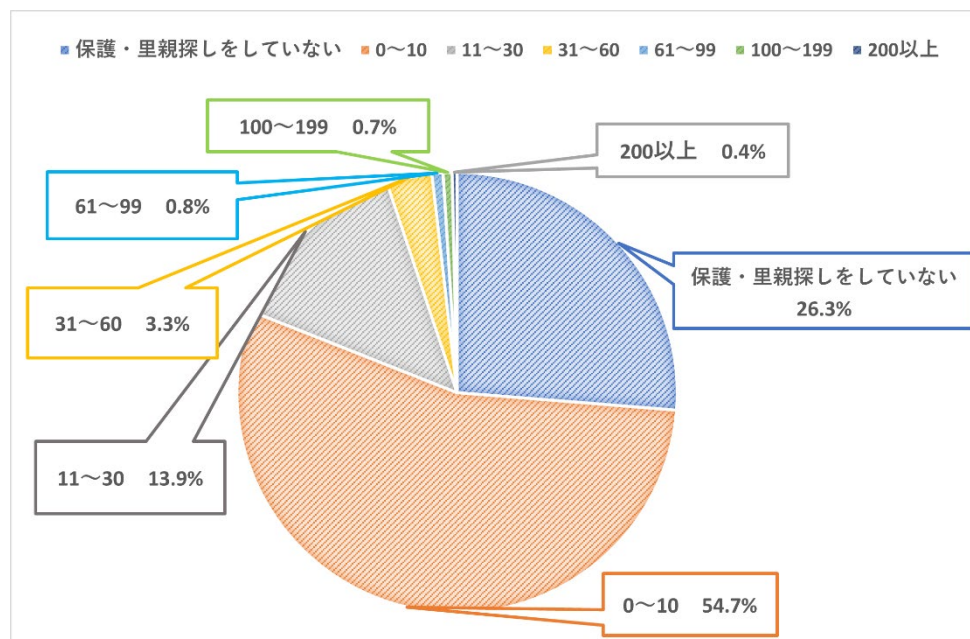
住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	820	42%
変わらない	1120	57%
悪くなった	28	1%

「悪くなった」との回答では、TNR 後も糞尿被害や畑を踏み荒らす行為がなくなり、なかなか住民の理解が得られないという報告がありました。

9. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	1451	74%
いいえ	517	26%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
保護・里親探しをしていない	517	26.3%
0~10	1077	54.7%
11~30	273	13.9%
31~60	65	3.3%
61~99	16	0.8%
100~199	13	0.7%
200以上	7	0.4%



1,451名(74%)の協働ボランティアが17,057頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	216	11.0%
1	201	10.2%
2~5	774	39.3%
6~10	431	21.9%
11~15	162	8.2%
16~20	84	4.3%
21~30	62	3.2%
31~50	27	1.4%
51~80	10	0.5%
81~100	0	0.0%
101 以上	1	0.1%

10. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	926	47%
資金不足	1356	69%
捕獲がうまくできない	804	41%
行政との調整	599	30%
地元地域との調整	839	43%
その他	108	5%
特になし	104	5%

「資金不足」「人出不足」「地元地域との調整」が例年上位に入ってきます。「その他」の回答では、ボランティアや餌やりさんの高齢化に対する不安の声が多く寄せられました。5年後、10年後の未来が描けず、漠然とした不安を抱えているボランティアが多いことが分かります。ボランティアの87%が40代以上であることを考えると無理もありません。飼い主のいない猫の問題は地域の問題です。個人ボランティアの良心に頼り、その責任を押し付けている状態ではいつまでたっても解決しません。多くの住民が認識を改め自分事として関わるようになれば、ここに挙げられた課題の多くは解決します。だからこそ、地元行政の積極的な関与を求めていきたいと思えます。

11. 飼い猫の捕獲について

2022 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	147	7%
いいえ	1821	93%

アンケート回答者 1,968 名のうち 147 名(7%)が、飼い猫を捕獲したことがあったと回答しています。通常は、飼い猫と確認できた時点で手術はせずに元に戻しますが、手術済みの飼い猫に誤って耳カットを行った事例が 1 件ありました。

質問: 誤って耳カットをした猫について、飼い主とはどう解決しましたか？

- 飼い主からは 6 年前に飼い猫の写真を送付してもらっていたが、目の色が違うと判断し TNR(手術済みであったため耳カットのみ)を行ったが、リターン後に関係各所へお怒りの電話が入った。その後、自宅へ謝罪にいくも数日お怒りの電話が続き、周辺に TNR 済みの猫が 20 頭以上おり、近隣にて猫の遺棄も多発しているため、耳カットしないと判断ができないとご説明したが、「おなかの毛を剃ることは分かるが耳カットまで許せない、全身麻酔のリスクがある」と大激怒された。ただし、首輪はしていない、人慣れしていない、外飼いをしていると本人も承知し、TNR 継続の大変さも理解してくれてはいたため、怒りは収まらなかったが諦めて納得された様子だった。新顔猫や耳カットなし猫は注視し、継続巡視は餌やりさんへお願いして、対象宅付近には近寄らない約束をした。

12. ピックアップコメント

- 私の住む地域は、自治体の助成金がなく、低価格で手術可能な病院も少ないため、全部すること、継続することが大切な TNR 活動において、資金的な課題が大きいのですが、どうぶつ基金のチケットに支えていただいています。
- 皆さまの支えで、毎月多くの猫たちが「さくらねこ」としてデビューしています。つらいこともあります。TNR 活動によって多くの猫たちが猫生をまっとうでき、皆さまの支えが私自身の原動力となっています。本当にありがとうございます。
- 皆様の大切なご寄付により、不幸な命の連鎖を止める活動ができています。生まれてくることが許されなかった小さな小さな命の分も、今生きている猫たちは精一杯サポートする気持ちで日々活動をしています。外猫に困っていると言っていた高齢者も地域猫について丁寧に説明をすると理解を深め、「外で猫を見つけたらまず耳を見るようになった。V カットがあったら安心する。ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えてくれます。これも皆様のご寄付があつてこそ実現できています。

- 猫たちに「君が顔も知らない、声も聞いたことがない人たちからの贈り物」だと耳に触れながら伝えます。
- 昨年度、熊本市では「どうぶつ基金病院」によって 2500 頭の「さくらねこ」が誕生しました。例年この時期には多くの子猫保護の相談をうけていましたが、今年はまだ1件もありません。子猫の相談がないので、成猫の譲渡が進み、シェルターで保護している猫も減少しています。夢のような春を迎えられ、どうぶつ基金さんと基金にご寄付頂いている方々には本当に感謝の念でいっぱいです。これからも、私達も頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします！
- どうぶつ基金の活動を知ったのは、近所の野良猫が増えたことで色々調べていくうちに知り、実施する側で活動に参加してみようと思いました。活動をするうえで、手術費用はさくらねこサポーターとして支援してくださっている方のご寄付によって成り立っていることも知り、ありがたいと思うと同時に、皆の猫を思う気持ちが TNR 活動を成立させているのだと、とても素晴らしい尊いものだと思います。少しでも多くの野良猫が殺処分という悲しい未来を迎えないよう、私なりにお手伝いが出ればと思いました。サポーターの方たちの熱い思いにも感謝いたします。
- さくらねこサポーターの皆様がいるから、全国の不幸な猫が減っています。コロナや物資高騰で、手術費用が値上がりしているなか、さくらねこサポーターの皆様には、感謝の言葉しかありません。私達が続けていけるのも、皆様のご協力があつての事です。本当にありがとうございます。
- ご寄付いただいた皆様のおかげで、私の住んでいる地域はこの数年かわいそうな子猫が産まれていません。ほぼ全頭がさくらねこになっています。これからもよろしく願いいたします。
- 温暖化による異常気象や不寛容社会のなか、お外で暮らす猫たちの環境はどんどん厳しくなっているように思います。それでも優しいボランティアさんたちの頑張りで、お外で暮らすしかない猫たちは「さくらねこ」になり、一代限りの命を懸命に生きています。いつの日か、お外で暮らすしかない猫がいなくなる日を夢見て、みんなでがんばっていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。
- さくらねこ TNR の活動にご支援をいただき、心より感謝申し上げます。皆様のご支援なしには私も TNR 活動が思うようにできなかつたと思います。毎年、特に春から夏にかけて飼い主のいない子猫がたくさん生まれて、泥やほこりまみれで懸命に生きている姿に心が痛みます。このような不幸な猫たちを増やさないために、私も微力ながら TNR 活動を続けていこうと思っておりますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします

13. 総括

- TNRを実施した地域における猫の変化について聞いたところ、「子猫の出産が減った・ほぼゼロになった」との回答が最多でした。アンケートに回答した一般枠ボランティアの78%にあたる1,536名がTNRによって猫の繁殖が抑制されていることを実感しています。苦情の原因になることが多い繁殖期の鳴き声や猫同士のケンカについても、減少した・ほぼ無くなったという回答が多く寄せられました(回答者の47%、932名)。しかし、そういった効果を実感しながらも、糞尿被害が続くなどして地域住民の理解が得られないという回答がわずかながら寄せられています。「さくらねこ TNR=TNR 先行型地域猫活動」は、まず不妊手術をして猫の繁殖を止めましょう、そしてそこから話し合いをしましょう、というものです。飼い主のいない猫の問題は地域の問題であり、本来は地域で話し合っ解決すべきこと。どの地域でも「殺処分やむなし」という声は根強くありますが、これまでの殺処分数の推移とTNR活動の広がりを見ていくと、飼い主のいない猫の問題は殺処分で解決しないことは明らかです。地域としてどう向き合っていくのかという問題を、これからも提起し続けていくことが必要だと感じます。
- 今回のアンケートでは、放し飼いにされている飼い猫の問題が複数のボランティアから寄せられました。糞尿被害や畑や花壇の踏み荒らし等に悩む地域住民に聞き取りを行った結果、近隣の飼い猫が原因であったというものです。また、未手術の飼い猫が出産を繰り返しているが、飼い主が不妊手術に同意してくれないといった声もあり、一部の飼い主の行為やモラルのなさが、ボランティアの活動に支障をきたしていることが分かってきました。
どうぶつ基金は完全室内飼育を推奨していますが、地域ごとに状況は異なり、猫を自由に外に出すことをよしとしている地域もあるでしょう。それであればなおさら、不幸な命を生み出さないために飼い猫は不妊手術を行い、飼い猫による近隣への迷惑行為については飼い主が対応しなければいけません。話し合いによって改善されない場合は、行政に指導を依頼することも方法の一つです。
- アンケートに回答した協働ボランティアの74%にあたる1,451名が、猫の保護・里親探しを行ったと回答しました。殺処分ゼロを達成するためには、TNRと保護・譲渡をバランスよく行っていく必要がありますが、保護活動には、猫を保護する場所、譲渡までにかかる飼育費用(フード代や医療費等)、猫をお世話するための時間など大きな負担が発生します。
昨今、負担できる限界を超えて保護を続け、多頭飼育崩壊状態に陥る個人ボランティアやボランティア団体が増加していますが、動物愛護に携わっているからこそ、自分の限界を見極める勇気が求められます。また、全国の行政には、本来行政が解決すべき問題のために民間のボランティアが大きな負担を強いられていることについて今一度考えてほしいと強く願います。